

ここがすごい！植物園の多様性保全

遊川 知久（国立科学博物館 筑波実験植物園）

日本は地球に 36 か所しかない生物多様性ホットスポットのひとつに選ばれるなど、世界でもっとも生物多様性の豊かな地域のひとつです。維管束植物に目を向ければ、約 7000 もの種類が自生します。ところが 4 分の 1 にあたる 1790 が絶滅危惧となっている、きびしい現状があるのです。全国で離ればなれに分布するこれだけ多くの種類の自生地を、わずかな人で見守り続けることはできませんし、開発や温暖化などによって現地環境もどんどん変化しています。

危機的な状況の中、植物園は大切な役割を担っています。植物園は役に立つ立たないを問わずあらゆる植物を対象にして、栽培、繁殖、調査、研究できる唯一の施設だからです。自生地の株がなくなったときの保険として、繁殖株を自生地に戻すときの元株として、生態などを明らかにする研究の材料として、約 1300 の絶滅危惧種を全国の植物園が協力して守り育てています。これらの中には、オリヅルスミレ、シビイタチシダなど自生地では絶滅してしまった種類もあります。また日本植物園協会は環境省や全国の植物園と連携して、現在約 700 種類の絶滅危惧種の種子・胞子を -20°C と -196°C の施設で長期保存しています。

日本の植物園は 2030 年までに 1400 種類の絶滅危惧種を施設で保全することをめざしています。言うまでもなく、この目標はひとつの植物園だけで達成できるものではありません。全国の植物園どうしが連携し、さまざまな個人や団体に協力いただくことによって初めて実を結びます。さいわい植物園は、市民が気楽に立ち寄って専門家と交流できる開かれた研究施設です。この特色を活かして、全国に分散する科学と人の力を結集させることができるように、日本植物園協会は「植物多様性保全拠点園ネットワーク」を発足させました。たとえば野生絶滅種コシガヤホシクサでは、自生地を管理する行政と市民の協力のもと、野生復帰に成功しました。



オリヅルスミレ
植物園で繁殖し野生絶滅から救った。沖縄島



ミヤマトキソウ
植物園の保全株を使って研究し新種として発表。白馬五竜



コシガヤホシクサ
市民と協働して野生絶滅種の野生復帰に成功した。茨城県